



AIESEC

Kwansei Gakuin Local Committee

Annual Report 2009



特定非営利活動法人 アイセック・ジャパン
会員団体 アイセック関西学院大学委員会
平成21年度 年次活動報告書



The international platform for young people to explore and develop their leadership potential



contents



- 4・・・アイセック団体概要
- 6・・・委員会理事挨拶
- 7・・・平成21年度委員長挨拶
- 8・・・平成22年度委員長挨拶
- 9・・・平成21年度活動実績報告
- 11・・・海外研修生受入事業局活動報告
局長挨拶
インターンシップ受入実例紹介
- Carlos Tapias(オランダ)
- 15・・・海外研修生送出事業局活動報告
局長挨拶
インターンシップ送出実例紹介①
- 中谷 勇輝(インド)
インターンシップ送出実例紹介②
- 森脇 惇(フィリピン)
- 20・・・平成21年度 決算報告
- 22・・・企画報告
 - Stakeholders' Party 2009
 - Carrier Fair
 - Carrier Fair vol.2
- 28・・・平成21年度賛助企業・寄付個人一覧
- 29・・・アイセック関西学院大学委員会団体概要

アイセック団体概要

■ AIIESECとは

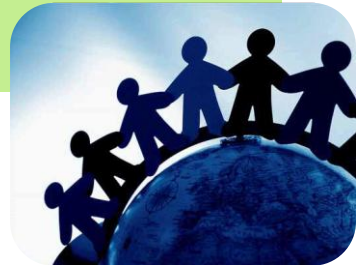
アイセックは、海外インターンシップ(研修)を軸とした国際的な挑戦の機会を通じて次代の国際社会を担う学生が自らの可能性を発見し、発展させる国際学生NPOです。設立以来、学生に海外インターンシップ事業の運営及び参加の機会を提供することを通じて、社会的課題を解決に導く人材や次世代の国際社会を牽引する人材の輩出を目指しています。現在では世界中で年間8,500人以上の学生がアイセックの海外インターンシップを活用しています。さらに、国内外で350の会議を運営し、5000人以上のメンバーに組織を運営して自らリーダーシップを発揮する場を与えています。

■ 海外インターンシップ事業

アイセックは1948年の設立以来、一貫して海外インターンシップ事業を行い、「インターンシップ」と「国際理解」の経験を通じ、国際社会を舞台に活躍しえる若者を育成しております。現在では年間8,500人程度の学生を交換し、継続的に次代のリーダーを輩出し続けています。

■ AIIESECの歴史

世界にまだ第2次世界大戦の傷跡が残る1948年、西欧7カ国の経済及び商学を学ぶ学生たちが、西欧社会の復興と平和の再建を目指して若者たちが手を結ぶことを呼びかけ組織されたのがAIIESECの始まりです。2008年、AIIESECは設立60周年を迎えました。



海外インターンシップ生交換事業



■ 団体理念

What is AIIESEC

AIIESEC is a global, non-political, independent, not-for-profit organization run by students and recent graduates of institutions of higher education. Its members are interested in world issues, leadership and management.

AIIESEC does not discriminate on the basis of race, color, gender, sexual orientation, creed, religion, national, ethnic or social origin.

アイセックは、その活躍の場を国際社会とし、いかなる政治思想からも自由で、独立した非営利組織であり、大学生を中心とする若者によって運営されています。我々は、国際問題・リーダーシップ・マネジメントに興味を持つ学生によって組織されており、人種や肌の色・性別・性的嗜好・信条・宗教・国・民族や社会的地位などから差別することはありません。

What We Envision

Peace and Fulfillment of Humankind's Potential.

平和で人々の可能性が最大限発揮される社会の実現。

Our Impact

Our international platform enables young people to explore and develop their leadership potential for them to have a positive impact in society.

アイセックの有する国際的な活動基盤によって、若者は、社会に好ましい影響を与える為にリーダーシップを発揮する能力を探求し、発展させることを可能にします。

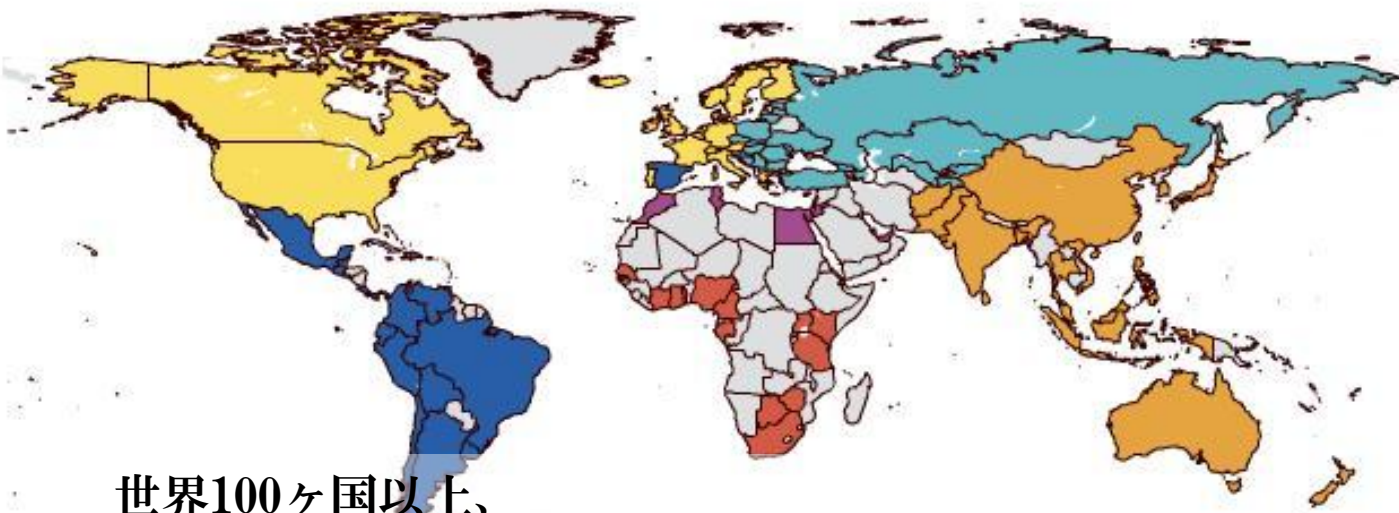
The Way We Do It

AIIESEC provides its members with an integrated development experience comprised of leadership opportunities, international internships and participation in a global learning environment.

アイセックは、そのメンバーに対して、リーダーシップ経験・海外インターンシップ・国際的な学びの環境を通して統合された成長機会を提供していきます。

Our Values

1. Activating Leadership
 2. Demonstrating Integrity
 3. Striving for Excellence
 4. Living Diversity
 5. Acting Sustainably
 6. Enjoying Participation
1. 常に主体性を発揮することで、新たな道を切り拓いていきます。
 2. 自身の行動によって生じる全ての責任を、最後まで果たします。
 3. 「現状不満足」を是とし、常に比類なき価値の創造を志向します。
 4. 寛容な心で差異を認め合い、そこから新たな価値を見出します。
 5. 次代へ繋ぐことを忘れず、持続的な価値を発信し続けます。
 6. 情熱を持ち果敢に挑戦することを以って、至上の喜びとします。



世界100ヶ国以上、
日本24大学委員会のネットワーク

委員会理事挨拶



アイセックOBとして理事に就任したのは6年前。その当時と比べて、アイセック関西学院大学委員会（以下、KGアイセックと略記）は随分と発展してきたようです。

その発展を象徴するごとく、送出部門の事例紹介で東輝実さんがNational Awardに輝かれました。またKGアイセッカーは世界的な非営利団体組織という特性を生かしつつ、海外研修生の受入先となる会社や組織団体を増やすための活動を展開しています。とともに、ここ数年は特に海外研修を経験する部員も増えています。今年4月より前KG委員長の坂野晶さんがアイセック・ジャパンの副事務局長に就任され、東京から日本全体のアイセック活動を支援されます。

まさにMastery for Serviceの実践が満載といった2010年のKGアイセックは、来年開催される創設40周年記念行事を契機として、一層飛躍する可能性を秘めています。

最後に、業況が悪化しやすい昨今、海外からの研修生を快く受入れてくださっている企業の社長様や研修担当の方々へ心より感謝の意を表すとともに、御支援を引き続き宜しくお願い申し上げます。



関西学院大学 商学部教授
藤沢 武史

いつも関西学院大学のAIIESECの活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。昨今の大学生の就職状況については、少し上向きの流れがあるとはいえ、大変厳しい状況が続いております。また新興国とよばれる中国、インドの経済発展が目覚ましく、北京において開催された自動車ショーが、東京モーターショーの比ではなく、加熱に近い状況になっているように、ますます日本経済は、海外への依存が高まりつつあるのが現状です。

企業は人がいなければ成り立ちません。海外に積極的に出ていくあるいは、海外からの人材を受入れなければ企業経営そのものが成り立たなくなることはステークホルダーの皆様はよくご存じだと思います。このような中、AIIESECのメンバーは果敢に海外との交流を深めるべく日夜努力をしています。ステークホルダーの皆様方におかれましても、AIIESECのメンバーの努力にご理解をいただき、また未来のためにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年のオリンピックで日本のスケートチームが大躍進を遂げましたが、一夜にしてなるものではなく、数十年にわたる不断的努力の結果であるとも聞いております。皆様にご支援いただいたAIIESECのメンバーおよび関係者が、未来に花開くことは間違いないと確信しております。あらためてよろしくお願い申し上げます。



関西学院大学 総合政策学部准教授
松村 寛一郎

平成21年度 委員長挨拶



『組織内の支援体制に挺入れし、持続的に成果を伸ばしている組織基盤を築いた年。』2009年度の弊委員会の活動を、上記のように総括致します。

2005年に委員会除名の危機を乗り越え再出発した2006年。組織を発展させようと大きな変革を生んだ2007年。それら土台を経て、海外インターンシップ事業に注力し、実践とともに成果を収めた2008年。そして、これまで組織を導き、共に成長させてきた先人達の想いを受け継ぎ、2009年はさらに弊委員会に関わってくださるパートナーの皆さまとの繋がりを深め、これからもずっと、愛され続けられるような組織を目指し活動して参りました。

例年以上にパートナーの皆さまにご協力いただいて実現した企画の数は多く、その繋がりにメンバーの一人ひとりに浸透した「皆さまの想い」「アイセック関西学院大学委員会に連なる想い」は次の世代に繋がる大きな活力となるはず、と期待をしております。また、組織として成熟していくためには、これまでのように研修事業規模拡大に一直線で注力するだけでなく、組織としての後方支援体制を確立すべきと人材育成局を独立して設けるとともに、広報関係局を新設致しました。研修事業局においてもマニュアルの整備など、基礎を着実にこなし、一件のインターンシップの確実性を上げることに成功し、より強固な体制を築くことが出来たと思っております。

結果として、全国で最も優れた送出研修として弊委員会の研修が表彰され、また最も効率良く研修先確保を達成した委員会としても表彰を受けることが出来ました。

2011年には弊委員会も設立40周年を迎えます。その節目となる時に弊委員会にて活動していく後輩たちが、皆さまと共に、より一層「愛される組織」を目指し、日々精進してくれることを願ってやみません。

どうぞ今後とも、アイセック関西学院大学委員会を末永く見守り、ご指導くださいますよう、お願い申し上げます。



平成21年度委員長
関西学院大学 総合政策学部3年

坂野 晶

平成22年度 委員長挨拶



平素よりアイセック関西学院大学委員会に多大なるご支援・ご協力頂きまして、誠にありがとうございます。

委員会存続の危機に直面し、再建を図ったこの数年間。その努力が徐々に実を結びはじめ、昨年度は弊委員会が生み出した研修が全国大会で最優秀賞を受賞するまでに至りました。

先人方が築いてきた想い、実績を引き継ぎ、今年度も人や社会を変える研修の創出を目指していきたくております。

国際社会は絶えず変化し、将来の展望を描きづらいこの時代。

このような時代だからこそ、我々若者はもっと国際社会に飛び出し、自らの創造力・実行力・状況把握力を高めていく必要があると考えます。そしてよりよい社会を志向し、それに向かい挑戦する姿勢、これが今の社会に求められている人材の形ではないでしょうか。

弊委員会では、上記のような人材を輩出すべく、今年度、海外研修生交換事業の企画・運営体制を強化いたしました。メンバーひとりひとりが主体性を発揮し、人や社会を変革する研修を生み出すことで、私たちの想いを社会に発信していきたいと思っております。

まだまだ未熟な学生の力ではありますが、関係者の方々のお力添えを得て、少しでも社会に貢献できればと考え活動いたします。至らぬ点多々あると思いますが、今後もアイセック関西学院大学委員会へのご理解、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



平成22年度委員長
関西学院大学 法学部3年

山口拓馬

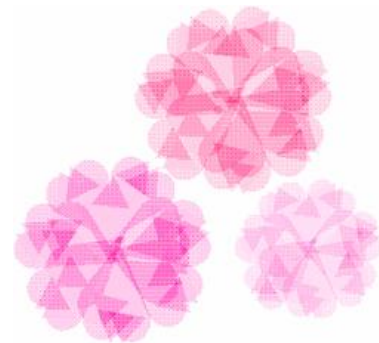
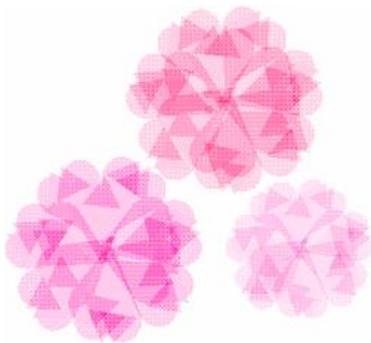
平成21年度 活動実績

海外研修生受入事業：1件



Carlos Tapias

【研修先】商船港運株式会社
 【研修期間】2009年12月1日～2010年3月5日
 【研修内容】社員に対するコミュニケーション力の査定、オランダの港湾運送に関する情報収集。



海外研修生送出事業：20件



森脇 博

【研修先】Gawad Kalinga Foundation (フィリピン)
 【研修期間】2009年7月～9月
 【研修内容】貧困コミュニティでの支援活動。



小西 悠介

【研修先】Philippines Eagle Foundation (フィリピン)
 【研修期間】2009年8月～9月
 【研修内容】Philippines Eagle Foundationのガイド、学校への環境教育。



井上 真里

【研修先】Philippines Eagle Foundation (フィリピン)
 【研修期間】2009年8月～9月
 【研修内容(簡潔に)】Philippines Eagle Foundationのガイド、学校への環境教育。



角田 浩太郎

【研修先】Philippines Eagle Foundation(フィリピン)
 【研修期間】2009年8月～9月
 【研修内容】フィリピンイーグルの生態に関係する施設の調査・保護、及び学校への環境教育。



瀨 修平

【研修先】Project Renaissance(インド)
 【研修期間】2009年8月～9月
 【研修内容】貧困地域での子どもへの英語教育。



山下 竜将

【研修先】Eden Social Welfare Foundation(台湾)
 【研修期間】2009年8月～9月
 【研修内容】英語教育・日本文化紹介・障害を持つ児童のお世話。



岡田 真由香

【研修先】The Philippine Red Party (フィリピン)
【研修期間】2009年8月～9月
【研修内容】現地の病院が企画するファッションショー、イベントの企画。

※規定の研修期間(42日以上)を満たしていません。



中川 直美

【研修先】XingGuangErWai (中国)
【研修期間】2009年8月～9月
【研修内容】語学学校の日本語クラスにおける授業の実施。

※規定の研修期間(42日以上)を満たしていません。



堀内 優子

【研修先】World Without Borders (ウクライナ)
【研修期間】2009年8月～9月
【研修内容】子供達が集まるサマーキャンプでのクラブ、イベントの運営、子供達への自国の文化の紹介。



東 輝実

【研修先】EcoAssist (ルーマニア)
【研修期間】2009年8月～10月
【研修内容】エコキャンプへの参加、エコプロモーションムービーの作成。



吉川 那奈

【研修先】Ekoart (ウクライナ)
【研修期間】2009年7月～10月
【研修内容】教育機関で日本文化を教える。



中谷 勇輝

【研修先】Mpadvisor (インド)
【研修期間】2009年11月～2010年1月
【研修内容】日本の製薬業界のマーケット調査、日本向けに会社の資料の翻訳、日本の会社とのやり取りの際の取り次ぎ等。



小西 彩香

【研修先】SOS Desa Taruna (インドネシア)
【研修期間】2010年2月～3月
【研修内容】孤児院での子供たちの世話、異文化紹介。



山見 玲加

【研修先】Structure d'Appui pour le D veloppement des Initiatives Locales au Togo (SADIL Togo) (トーゴ)
【研修期間】2010年2月～3月
【研修内容】子ども達への異文化教育、教育に関するディスカッション。



伊瀬 絢香

【研修先】Culture.ru (ロシア)
【研修期間】2010年2月～4月
【研修内容】学校での日本文化紹介、異文化教育。



小寺 美玖

【研修先】Spring Learning Center (インドネシア)
【研修期間】2010年2月～4月
【研修内容】日本語教育、英語教育。



佐藤 遼

【研修先】Skills Matter (ウクライナ)
【研修期間】2010年2月～4月
【研修内容】マネジメントに関する授業の展開。



竹中 拓也

【研修先】Young and Perspective (ロシア)
【研修期間】2010年2月～3月
【研修内容】学校での日本文化紹介、異文化教育。



深和 美菜

【研修先】ACCE (フィリピン)
【研修期間】2010年2月～3月
【研修内容】貧困地域での活動援助。



南原 隆之介

【研修先】Philippines Eagle Foundation (フィリピン)
【研修期間】2010年3月～9月
【研修内容】フィリピンイーグルの生息に関係する施設の調査・保護、及び学校への環境教育。



-In Coming eXchange-

海外研修生受入事業局 活動報告

Bridge Forward!!!

- 自革 → 行上 → 夢現 -

年間で1件の研修実現、3件の新規契約を獲得。



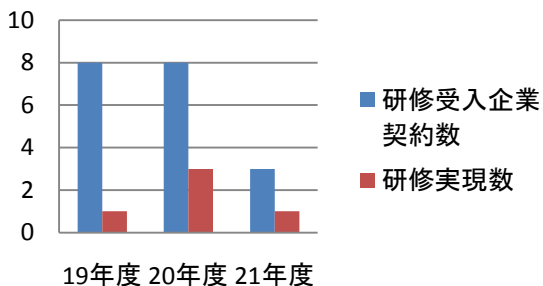
局長挨拶



石井 恵士

平成21年度海外研修生受入事業局 局長
関西学院大学 法学部4年

研修受入企業契約数と研修実現数の 年次推移



2009年度の受入局は「Bridge Forward!!! - 自革→行上→夢現-」という方針のもと、17名のメンバーで活動してまいりました。結果として、研修生受入実現数1件(商船港運株式会社様にオランダ人のカルロスを受入)、それを含む受入契約数3件という数字とともに、次年度(2010年度)以降の目に見える成果の種を芽吹かせた「長期発展型」への進化を遂げる1年となりました。具体的には、1チームとして目指すべき長期指標を明確に設定、これまでに実現した研修をグッドケースとし情報や資料を整備、戦略立案の委任や頻度の高いコミュニケーションの実施などを通じたボトムアップのメンバー育成、といったものが2009年度の受入局で行ってきた事です。

この1年を振り返りますと、前年度(2008年度)の後半より起きた世界的な大不況の影響は私たち受入局には非常に大きなものがあり、年度当初に確実な研修生受入実現見込みがないという危機的な状態からのスタートでした。それゆえに、局長として一緒に活動してくれる受入局のメンバーの士気をいかに高め、また楽しんでもらうかという点を常に考える日々でした。

そこで私たちの大きな支えとなってくださったのが弊委員会を知る企業の方々のご支援です。研修生の受入実現にはまだ及ばずとも、それを前提に弊委員会の企画への参加やアドバイスの頂戴など様々な点からご協力を賜りました。

活動の軸である研修運営の方でも、その質を充実させる事ができたと自負しております。2年連続で研修生を受入れてくださった商船港運株式会社様では、メンバーも研修に参加させていただいたり、研修の風景をプロのカメラマンの方に撮影していただき有名な動画投稿サイトで公開、研修の価値を外部に発信したりと新たな取り組みを行ってきました。何より、研修生であるカルロスをはじめ、本研修に関わった者の未来につながるものとなった事がその意義だと思っています。

私は、常にメンバーへの仲間としての信頼と感謝を揺るぎない信念として抱えています。この2009年度を、これからの発展の種を芽吹かせた形で締めくくれたのは偏にその1人1人のメンバーが描く理想に向かって全力で走ってくれたからであり、またそのオモイに対して温かくご支援くださった方々のおかげです。

あらためましてこれまでのお力添えの御礼申し上げますとともに、これからも私たちへのご支援、ご鞭撻よろしく願いいたします。

-In Coming eXchange-



商船港運株式会社
インターン生
Carlos Tapias

アイセック担当者の声

カルロスが帰国する3月10日は一瞬のうちにやってきました。カルロスとは研修という本質面はもちろんのこと、それ以外の場でも深く関わることができ、本当に充実した時間を過ごすことができました。カルロスは日本語を話すことができなかったため、コミュニケーションを取る上で困難な時もありましたが、その困難を乗り越えることで多くのことを学べたと思っています。また、商船港運様にも多くの協力をさせていただき、カルロスにとってもアイセックにとっても良い形で研修を終えることができたと思います。様々な人の協力の下でこの研修づくりをすることができて、何事にも一生懸命に、そして積極的に打ち込む姿勢を学ぶことができました。 関西学院大学 商学部1年 島村祐市

受入企業様の声

商船港運は国際コンテナターミナルの運営や輸出入貨物の通関等を行っており、言わば外国との窓口といった一面があります。にもかかわらず、従業員の多くは外国人との交流や英語への取り組みに消極的でした。従業員に少しでも生の英語に触れる機会を与え、英語に興味をもってもらう目的で昨年度より研修生受入を実施しました。

前回の研修をきっかけに、英語学習をスタートした従業員が増え、また今後も研修生受入を続けてほしいという前向きな意見が多く聞かれました。このような従業員の英語に対するモチベーションを維持するために、今年度も受入を決定しました。

従業員には自分の業務内容を英語で説明するというタスクを与えておりましたが、研修生のカルロスは弊社の業務に興味を持ち、とても熱心に研修に取り組んでいました。

また、カルロスは大学で港湾の勉強をしており、基礎知識があったため理解が早く、自分が知りたい事を明確に伝えられたのでレクチャーしやすかったという意見がありました。そしてヨーロッパ最大の港湾地域であるロッテルダム港の情報を提供してくれたことは、我々の期待以上にこの研修に良い影響を与えてくれました。

カルロスには3ヶ月という短い期間で大阪・神戸の全セクションを経験してもらいましたが、まったく疲れを見せず、アフター5や休日も従業員と過ごす事が多かったようです。また、今回もたくさんのアイセックメンバーと交流を持つことができ、良い経験をさせていただきました。前回に引き続き弊社を担当していただいた石井さんには、たくさんサポートしていただきましたし、1年生の島村さんと細見さんも、研修を盛り上げようと一生懸命がんばってくれました。本当にありがとうございました。1年生のお二人には今回の研修を通して得た事を次に繋げていただいたら嬉しく思います。また報告会や懇親会に参加して下さったアイセックメンバーにもこの場を借りてお礼申し上げます。今後ともよろしくお願いします！

商船港運株式会社 管理部 峯本淳子



-In Coming eXchange-

研修生の声 Carlos Tapias

A win-win-win situation at Shosen Koun

My name is Carlos Tapias; I am a 24 years old student at the Erasmus University in the Netherlands. At this moment I'm in the last phase of my Master which is Urban, Port and Transport Economics.

■ 研修に参加しようと思った理由は何ですか。

I have always been interested to explore the world, meet new people, new cultures and gain more personal as well as professional experience therefore when I got this opportunity to go abroad it was something that I needed to do for myself.

■ なぜ商船港運株式会社での研修を選びましたか。

When searching for the right match in the database of AIIESEC I realize that the content of the internship provided by Shosen Koun in Japan was most compatible with my current study. The details of the work were in accordance with many of the courses I followed during my study. Also, the possibility to work in different departments was appealing for me.

It was a nice opportunity to experience port terminal business from different point of views and from up-close. This opportunity gave me the chance to get a total picture of procedure required when transporting goods from point A to B. Moreover, the fact that the company in question is a subsidiary of one of the world's largest shipping companies was also relevant in making my decision.

■ 研修中に行った業務活動を教えてください。

My main task during my internship was to evaluate and improve the workers' English skills and give them a more international sense. Since, I am really interested in this sector and I have gained the basic knowledge of port operations during my study, most of the conversations went smoothly. Still, different approach were desired to communicate with the members with different English skills. Considering the situation on a whole I would describe this opportunity as a win-win-win situation. I have the possibility to gain more knowledge of port operations and logistics in port, the staff members are able to improve their English skills and understand the international aspect of the company better and AIIESEC acting as a professional mediator and improving their relation with the company.



■ 研修前の期待、そして研修後得られたものは何ですか。

By doing this internship I expected to understand better the relation that existed between the theory and the real world. Also, I expected to get to know the Japanese culture better but not from a tourist view but by communicating daily within a work environment. Participating in an AIIESEC internship also provides me with the possibility to communicate with students of my age and understand their way of thinking. After realizing this internship in Japan I can conclude that all my expectations were met, the link is clearer for me between theory and practice and I am able to understand better the way of how Japanese people think.

■ この研修を今後どのように活かしてゆきますか。

When it comes to the future, I believe this internship will only make me stronger in the competitive port market of Rotterdam. As mentioned before this experience would have given me more insights on what is happening within the port and create a link with the theories. Additionally this internship will provide me with the basic knowledge and tools necessary for working within the port.



-Out Going eXchange-

海外研修生送出事業局 活動報告



スムーズな研修実現プロセス 確立による付加価値増大

年間で₂₀件の研修を実現。

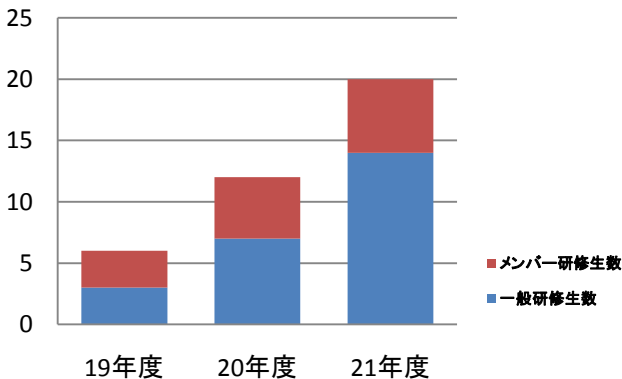


局長挨拶



岸本大輔
平成21年度送出事業局 局長
関西学院大学 総合政策学部3年

送出事業数的成果の年次推移



2009年度の送出事業局は、「教的成果の伸長」と「National Awardの獲得」を成し遂げました。前年度比75%増となった研修実現数は20件の大台に乗り、この10年間で最高の実績となりました。また、アイセック・ジャパンの送出事業局では第3位の研修数(関西では第1位)となり、アイセック・ジャパン全体に対しても確かな存在意義を発揮する事業局へと成長しました。この成果の要因として挙げられるのが、研修生を海外へ送り出す際の確実性と効率性を高めたことです。昨年度までは渡航まで3週間をきってからの研修先決定が9割を超えており、研修先選定期間における確実性のなさと非効率性が課題となっていました。

そのため、今年度は「研修実現プロセスの効率化」を狙いとしたスローガンを掲げ、マニュアル作成によって研修先選定活動の知識の集約と共有、局員への研修先選定活動に関するトレーニング機会の充実に取り組みました。その結果、契約した研修生の送出成功率は9割(アイセック・ジャパンの平均値は7割弱)を超え、6割の研修生が、渡航より1ヶ月以上余裕をもった状態で研修先を決定することができました。また、この実績はアイセック・ジャパン内でも高い評価を得ており、「最も確実に、効率的に研修を実現させた委員会」として表彰を受けました。

研修数だけでなく、研修の質的側面においても高い成果を得ました。3月に開催されたアイセック・ジャパンの最優秀研修事例を決定するイベント「National Award」において、弊事業局が担当した東輝実さんの研修事例が「最優秀研修事例」を獲得しました。

しかし、成果が伸びるとともに、新たな課題も浮き彫りになった年でした。一人一人が社会人の方に対し積極的な働きかけが出来ず、内向きの傾向にあったことです。情報獲得を目的とした社会人の方への渉外が6件のみ(昨年度は15件)となり、昨年見られた社会人の方を巻き込んだイベントも実行されませんでした。要因としては、より研修実現の確実性に力を入れたために、送出事業局全体の意識がそちらに傾倒したことが考えられます。2010年度は2009年度の成果を引き継ぎ、恒常的に伸ばしながら、さらに活動そのものを社会に対して発信して欲しいと考えています。

最後にはなりましたが、平素から弊事業局の活動に御理解の上、御協力を賜っている関係者の方々に心より熱く御礼申し上げます。今後とも、アイセック関西学院大学委員会送出事業局への御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い致します。

-Out Going eXchange-



インドでのインターン
中谷 勇輝
「大志を抱き、成すために」

■研修に参加しようと思ったのはなぜですか？

インターンシップに参加した理由は短期的なものや長期的なものに分けられます。短期的なものでは『アイセック活動の集大成』ということ、そして長期的な理由は『自身の将来に有用な経験を得る』ということです。

まず、アイセック活動の集大成という点では、私は3年間、関西学院大学委員会の受入局に所属していました。そこでは、実際に社会人になってから経験するようなことを疑似体験する機会が多々あり、その経験が、どのぐらい社会で通用するのかということを知りたかったのです。

次に自身の将来に有用な経験を得る、という点では、私は将来、父の会社を継ぐ予定です。信念をもって会社を経営している父の背中を見て、私も地元から日本をオモシロくしていけるような人間になりたいです。その時には今よりも海外という視点がビジネスには欠かせなくなっているはずである、そう考えています。

そのために、純粋に社会経験と海外経験を得ることに加え、実際の社会や異文化に単身で飛び込むことで自分という人間を見つめなおし、今後何をしていくべきなのかということをもより明確にすることが二つ目の理由です。

■研修中の困難だった点を教えてください。

仕事において、閑散期と繁忙期があったなかでの閑散期に直面した時です。

初めのうちは「何か手伝えることがないか」ということを担当者に尋ねていたが、次第に与えられるものもなくなっていき、ゼロということも珍しくなくなっていました。

外から見れば、知識も経験もないし、そのような状況は起こりうるんじゃないかと思えるかもしれませんが、そんなことは言い訳にはならないし、そこから湧き上がった悔しさがその状況をどのように打開していくべきかという“考動”に至る原動力になりました。

そこで、会社が何を求めていることを考え、自分から仕事を生み出す姿勢を持つようにしました。その結果、仕事が増えたり、自分のアイデアが採用されたりしたので、能動的に仕事をする重要性を学ぶことができ、今後社会に出てもそのような姿勢を持ち続けていこうにしたいと思います。

■研修で得たものは何ですか？また、それをこれからのキャリアデザインにどう活かしていきますか？

今回のインターンシップでの一番の収穫は自分自身と真摯に向き合え、今の自分に必要なことがより明確になったことです。私が今すべきことで、特に重要だと思われるのが『専門性』です。というのも自身の自身がやっていきたいことがより明確になった一方で、それを実現するための自分自身の強みがまだまだ自分にはないと痛感したからです。

巷で話題になっている坂本龍馬は日本トップレベルの剣の腕があったことで偉業を成し遂げるための同志と出会い、人生のメンターとなる勝海舟にも出会っています。

そのように自身の可能性を広げ、目標の実現に近付けてくれるものが『専門性』であると考え、今よりもっと長所を伸ばしたり、貪欲に学ぶ姿勢を持ち続けたりすることで『専門性』をつけていきたいと考えています。



-Out Going eXchange-

フィリピンでのインターン
森脇 惇
「日常性」と「継続性」



■ 研修に参加しようと思ったのはなぜですか？

色々な理由が入り混じって研修に参加したのですが、一番の参加理由を紹介しようと思います。

もともと途上国の貧困問題に興味がありアイセック活動を行っていました。将来的にも何らかの形で貧困問題解決に関わりたかったので、その手段の一つとして「途上国のNGOで働く」ことを経験しようと思いました。

■ 研修中の困難だった点を教えてください。

困難だったことは主に2つあります。

一つ目は言葉の壁にぶち当たったことです。研修前から予想していたことではありましたが、仕事レベルになると語彙力のなさから英語が分からない、自分の想いが伝わらないという困難がありました。また、研修先の村の人たちは現地語しか話せずコミュニケーションをうまく取ることができませんでした。

二つ目は、研修生として何をすべきか分からなかったことです。当時は受入先のNGOに15人ほどの研修生がいて飽和状態でした。英語に対して劣等感を抱いていたせいも主体的に動くことができず、ダラダラと毎日が過ぎてしまいました。

この2つの困難に対して、根本原因は現地の生活に慣れていないだけだ！と他の日本人研修生達と考えていました。「着いてすぐに村の真の課題なんて分からない。現地の人と同じように現地の生活を送り、Philippinizeすること。」これといって何かキッカケがあったというわけではありませんが、研修開始3週目ほどからとにかく足を動かしました。「部屋で悩むのではなく、毎日村に行って1日を過ごす。それを毎日繰り返す。」彼らと同じ目線で同じ時間を共有してこそ見えてくるものがあると思ったのです。

現地の生活に溶け込んでいることを背中から魅せることで、村の人達から話しかけてくれるようになりました。また、村だけでなくJICAの事務所を訪れたり、市議会議員にインタビューしたりと色んなものを吸収しようと貪欲になりました。今だから冷静に当時のことを振り返っていますが、当時は無心でフィリピンの全てを感じようとしていました。

■ 研修で得たものは何ですか？また、それをこれからのキャリアデザインにどう活かしていきますか？

上記2つの参加理由は満たされたと考えます。良くも悪くも途上国のNGOはこういうものなのだと思いますが、日本人的価値観で物事を捉えても必ずしもそれがフィリピンにとって意味のあることかと言えばそうではないのです。やはり現地の生活に根差した支援が必要であり、結局開発の現場というのはNGOではなく地域社会にあると感じました。NGOはあくまで開発のためのパートナーであり、現場の真の声は地域社会に存在するのでは、と考えました。また、政治家にインタビューをしたのですが、自国の貧困問題には消極的な姿勢だったので国の政治体制がこれではいくら草の根の活動を行っても貧困は消えないと思いました。帰国後、大学では途上国の政治体制を勉強しています。また、僕はアイセックメンバーとしても研修を体験したがゆえに研修の魅力を自分の経験を通じて話すことができることを活かして、2010年度は送出局局長として一人でも多くの学生を送出し、研修の素晴らしさを感じてもらえるよう日々の活動に精進しています。



-Out Going eXchange-

森脇 惇担当
横内 佑和

研修生担当者の声



■森脇君の研修担当マネージャーをした理由を教えてください。

森脇君の研修を担当させて頂いた理由は大きく分けて2つあります。

1つは、私自身が研修に参加した経験を、彼の研修創りに活かすことができるのではないと思ったからです。1年生の春休みに私はフィリピンのNGOで研修を行いました。そこでの研修を彼が希望していました。私は少しでも自分の経験を活かした活動を行いたいと思っていたので、彼の担当を希望しました。

もう1つは、興味分野の一致です。森脇君も私も貧困問題に興味があり、共に学びながら研修を創っていきたく思っただからです。

この2つの理由で、森脇君の研修を担当させて頂きました。

■研修生のマネージャーをしていて困難だったことは何ですか。

研修の担当をしていて一番困難だったことは、研修先が決まる直前に、現地の研修担当者から森脇君を受け入れることが出来ないという連絡が来たことです。これにより再びゼロベースから研修先を探すという作業が始まりました。しかし、なかなか彼の希望に沿うような研修先を見つけることが出来ず、研修の実現そのものが危ぶまれました。この時ばかりは私も森脇君も精神的にかなり辛かったです。最終的に現地の研修担当者から受け入れが決まったという連絡が来た時は心の底から嬉しさと安堵がこみ上げました。

■研修生のマネージャーをしていて良かったことは何ですか。

私にとって研修生のマネージャーの一番の魅力は、「一番近くで研修生の変化や成長を見ることが出来る」ことです。研修を通じて、森脇君の様々な変化や成長をした姿を見る事が出来ました。研修参加前や実際に現地に行つてすぐの彼は、かなり感情に任せて行動をするタイプの人でした。しかし、現地で様々な困難を乗り越えたことにより、研修前の様に感情的に行動することが少なくなり、冷静に、そして客観的に物事を捉える事が出来る人になったと感じました。その時に「彼の変化」というものを見ることが出来き、本当に嬉しかったです。

今年度のアイセック関学委員会で森脇君も私も執行部として活動しています。研修生とその担当者に留まらず、共に活動し切磋琢磨し合える関係でありたいと思います。



委員会会計 財務決算報告

貸借対照表

平成22年3月31日現在

(単位:円)

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金		預り金	
普通預金	938,724	借入金	
定期預金		法人からの借入金	
有価証券		現金過不足	
立替金		源泉不明金	
法人への貸付金			
保証金		負債合計	
基本金引当預金	100,000	正味財産額	1,338,724
基本金引当投資有価証券		(うち基本金)	100,000
積立金引当預金	300,000	(うち積立金)	300,000
積立金引当投資有価証券		(うち企画準備金)	
使途不明金		(うち当期正味財産増減額)	358,106
資産合計	1,338,724	正味財産合計	1,338,724
借方合計	1,338,724	貸方合計	1,338,724

収支計算書

自:平成21年4月1日 至:平成22年3月31日

(単位:円)

項目	決算額	予算額	差額	備考
1. 収入の部				
海外研修生受入事業委託収入	35,000	35,000		
海外研修生送出事業委託収入	576,000	432,000	144,000	
学生会員会費収入	372,000	368,500	3,500	
賛助会員会費収入	250,000	150,000	100,000	
寄付金収入	40,000	30,000	10,000	
補助金等収入	30,000	30,000		
企画賛助収入				
広告賛助収入				
法人からの収入				
基本金引当預金取崩収入				
基本金引当投資有価証券売却収入				
積立金引当預金取崩収入				
積立金引当投資有価証券売却収入				
保証金戻り収入				
基本財産運用収入		166	▲ 166	
雑収入	641	1,182	▲ 541	
当期収入合計	1,303,641	1,046,848	256,793	
前期繰越収支差額	580,618	580,618		
収入合計	1,884,259	1,627,466	256,793	

収支計算書 (貸借対照表)

収支計算書

自:平成21年4月1日 至:平成22年3月31日

(単位:円)

項目	決算額	予算額	差額	備考
2. 支出の部				
印刷製本費	41,160	30,000	11,160	
旅費交通費	268,550	246,500	22,050	
施設使用料	8,700	6,000	2,700	
会議費	91,710	89,400	2,310	
委託費	11,900	30,000	▲ 18,100	
贈謝金	6,266	24,550	▲ 18,284	
飲食費				
宿泊費				
消耗品費	49,575	34,200	15,375	
什器備品費				
書籍雑誌費				
通信運搬費	23,696	15,500	8,196	
光熱水料費				
賃借料				
保険料				
会員加盟費				
年会費	100,000	100,000		
法人への維持管理費用負担金費用	330,271	231,508	98,763	
法人へのその他の費用	7,827		7,827	
保証金支払支出				
基本金引当預金積立支出				
基本金引当投資有価証券購入支出				
積立金引当預金積立支出				
積立金引当投資有価証券購入支出				
支払手数料	5,880	5,460	420	
雑費				
当期支出合計	945,535	813,118	132,417	
当期収支差額	358,106	233,730	124,376	
前期繰越収支差額	938,724	814,348	124,376	

KG財務決算報告(収支計算書-収入の部)

KG財務決算報告(収支計算書-支出の部)

Stakeholders' Party 2009

両想い

~for Evolution~



丹夢希

平成21年度外部関係局 局長
関西学院大学 法学部2年

●コンセプトを「両想い」にした理由は何ですか？
今年度の活動方針が「愛される組織」という中で、こちらも社会を愛さなければならないと感じました。何かのイベントや企画で協働する場合、お互いがよく知りあっていなければならないと思っています。それ故、自分たちがStakeholdersの皆様を知って、Stakeholdersの皆様にも、もっとKGを知っていただきたいと思いました。

昨年度の本企画は「協働」というテーマでしたが、もっとフランクな形式や空気を創りたいと思い、今年度の第二部の構想を持ちました。Stakeholdersの方々にも自由に話してもらえるような場になるよう、努めました。お互いのアイセックに対する思いを知ろうというのが根本的にあったからこそ、Stakeholdersの方々からのご感想に、メンバーの思いを知ることができた、いう声をいただけてうれしかったです。

●開催した感想はいかがでしたか？

一番恐れていたことは、前回ほど形式のしっかりした企画ではなかったことで、はっきりした結果を残せるかどうかということでした。しかし結果的に、第二部のコンセプトを規定しすぎず、大枠設定のみに留めたことによって、よりStakeholdersの皆様とフランクに話せたという声をメンバーよりもらいました。私たち外部関係局員が賛助渉外に伺っていることで、Stakeholdersの方々の思いを知っていたからこそ、メンバーにも知ってもらいたかったのです。

●Stakeholdersの皆さまへ

今後も私たちは自分たちの思いを発信していくよう努力し、また、Stakeholdersの皆様の思いを受け止めて活動への原動力にして参りたいと思っております。今後ともアイセック関西学院大学委員会とのお付き合いをよろしくお願いいたします。40周年に向けて、より活発に、より一層自分たちの思いを形にし、発信していくよう頑張ります。

Stakeholdersの皆様とAIIESECで、これまでも様々な協働の機会を持たせていただけてきました。そしてこれからその関係をさらに進化させていきたい、そんな想いを持ち、本企画は始動しました。

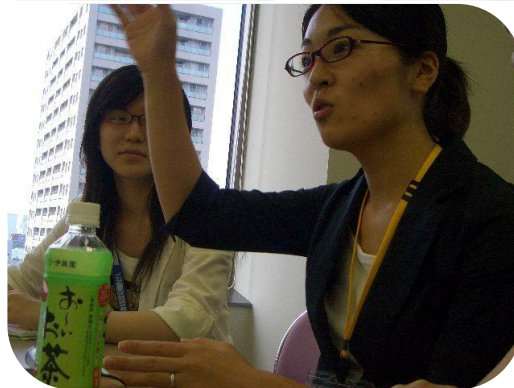
Stakeholdersの皆様と普段お会いするAIIESECのメンバーは私ども外部関係局など、一部に限られており、なかなか全員がお互いの想いを知ることの出来る機会がありません。

しかし私たち一人一人がどのような想いで活動し、また皆様がどのような想いで協力してくださっているのかを直に知ることで、個々の関係の更なる『進化』を促すこと、またその深いコミュニケーションを通じて、お互いに更に『進化した協働の形』を生み出すきっかけ作りが出来るのではないかと考えました。

今回のこのStakeholders' Party2009を機に、AIIESECの活動に関わってくださっている皆様の想いとAIIESECメンバーの想いを繋ぎ、『両想い』へ。そして、相互のパートナーシップを『進化』させ、次のステージへと繋げていけるよう、尽力したく思っております。



Stakeholders' Party 2009



■ 参加Stakeholders一覽 ■

【贊助企業様】

■ 大日化成株式会社
代表取締役

小林 知義様

■ 浪華絹綿株式会社
代表取締役社長

西澤 勉様

【その他参加企業様】

■ 株式会社アピステ
人材活性グループ
アシスタントマネージャー

宮崎 茂夫様

■ 株式会社フクナガエンジニアリング
管理本部 総務課

安東 弘之様

【Alumniの皆様】

1975年卒業

■ 吉谷治逸様

1980年卒業

■ 遠藤友厚様

1981年卒業

■ 大向寿和様

1984年卒業

■ 若藤正典様

2004年卒業

■ 吉田(大北)啓代様

Carrier Fair

信じろ、自分を、AIIESECを。
～Colorful AIIESEC Experience～



伊木 章子
2009年度 副委員長 兼 人材育成局局長
関西学院大学 総合政策学部 3年

—自分が今やっている活動が、何に繋がってるのかが分からない。

—AIIESECで活動する事は本当に意味があるのだろうか。

—こんな自分がAIIESECで活動してもいいのだろうか？

そんな思いを心の何処かにもつメンバーが、今一度AIIESECで活動する自分自身を信じ、そして今自分がいるAIIESECというフィールドを信じて新たな挑戦への一歩を踏み出してほしい。—

そんな思いから今回の企画を立ち上げました。

それぞれのメンバーには色々な背景がありますが、何らかの縁があってこうしてAIIESECというフィールドに出会い、今まで精一杯活動してきました。

一度きりの人生、一度きりのAIIESECライフ。自分のその経験に心から誇りを持って貰いたいという気持ちで準備を進めて参りました。

Carrier Fair

<第一部> パネルディスカッション ブース型懇親会



大先輩のお話に聞き入る
メンバーたち

AIESECで過去に精力的に活動された先輩方のお話を伺う事で、自分自身の将来の青写真を描き、AIESECというフィールドの持つ可能性を存分に感じ取ってもらう事を狙いとしてしました。

参加メンバーの声

委員会の枠にとらわれないアイセック・ジャパンに所属するメンバーとしてのキャリアパスを描くにあたって、参考となる具体例を獲得することができました。

<第二部> キャリア・ワーク

今までのAIESEC活動を振り返り、そこから自分は何を得てきたのか、それは自分の目指す理想像にとってどんな位置づけなのかを考えた上で、現在の自分を分析し、これからのAIESEC活動何をしたらいいのか、を考える時間としました。



真剣に記入するメンバーたち

Carrier Fair 2



丹夢希
平成21年度外部関係局 局長
関西学院大学 法学部2年

Career Fair vol.1でAIESECを卒業し社会でご活躍する Alumniにお会いしました。しかし、その姿を自分自身に置き換えてみると、自信を持って魅力的に自分の活動を人に語る事ができるだろうか、語る「材料」はあるのだろうかという疑問が生まれました。

そこで、1,2年生にはこれまでの自分自身のAIESEC活動を振り返り、人と共有し合うというアウトプットを通して、より自分の中に活動を落としこみ、AIESECで活動することの意義を再度感じてもらいたい。就職活動を間近に控えている3年生には、自分自身を伝えることや、自分自身がやってきた活動やそこで学んできたことを、魅力的に誰かに伝えるにはどうすれば良いのか、それらを探ってもらいたいと思ったことが、この企画の始まりです。

実際、メンバーにはとても満足してもらえたようで、特にパネルディスカッションや小林様の講演ではアイセック活動をその先にどう活かすか、また、普段の生活における物事の見方などを幅広く学べたという感想が多くありました。みんなに考えてもらった「今日からの行動を変えるには何が必要か」、自身の回答を今も忘れることなくそれぞれの道を歩んでくれていることを祈ります。



<第一部> パネルディスカッション

4年生に就職活動の面接などで、AIIESECに関して「語ったこと」を話していただきました。それをもとに、なぜ多くの経験の中からその経験を選んで話そうと考えたのか、また、その経験からどんなことを伝えようとしたのか、などに切り込んでいきました。

3年生は、実際に4年生たちはどのようにして魅力的に自分を伝えたのかというモデルを知ることで、具体的に自分の就職活動のイメージをつかむことが出来ました。1,2年生も自分の活動をデザインする上でのより身近なロールモデルを得る機会となりました。

<第二部> 小林様による基調講演

第一部にコメンテーターとして参加していただいた太陽刷子株式会社 経営支援部の小林様に、過去のご経験を活かして講演をしていただきました。

就職活動の際にどのように会社を選ぶのか、その軸となる価値観は何かなど、改めて自分自身を振り返る上で貴重な視点を獲得することができました。特に「変えられるもの、変えられないもの」を認識し、変えられるものに焦点を当てて思考・行動するというお話は非常に印象的でした。



<第三部> ワーク/模擬面接



第一部・第二部を踏まえて、各メンバーが自分自身ならどんな活動、どんな経験を人に語れるか？という視点から、今までの活動を振り返りました。自分自身のこれまでのAIIESEC活動を自己分析し、どの活動が自分の中で重要か、自分の軸になっているものを探しました。その後グループメンバー内でシェアをし、互いにフィードバックし合いました。また、4年生には各グループをまわってもらい、アドバイス等をしてもらいました。

平成21年度 賛助金・寄付金を頂いている 企業ならびに個人一覧



株式会社アローフィールド

代表取締役社長 矢野 英雄様
<http://www.arrowfield.co.jp/>



清水電設工業株式会社

代表取締役社長 清水 政義様
<http://www.seavac.co.jp/>



大日化成株式会社

代表取締役 小林 知義様
<http://www.dainichikasei.co.jp/>



株式会社中央電機計器製作所

代表取締役社長 畑野 吉雄様
<http://www.e-cew.co.jp/>



浪華絹綿株式会社

代表取締役社長 西澤 勉様
<http://www.namiken.co.jp/>



株式会社エスポワール

代表取締役社長 奥野 克彦様



2008年度卒業

第36代委員長 中西 和博様

アイセック関西学院大学委員会 団体概要

【基本情報】

- 名称 特定非営利活動法人アイセック・ジャパン
会員団体 アイセック関西学院大学委員会
- 理事 藤沢武史 関西学院大学商学部教授
松村寛一郎 関西学院大学総合政策学部准教授
- 所在地 〒662-8501
兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
関西学院大学新学生会館内
- URL <http://www/aiesec.jp/kg>
- E-mail kwansei_gakuin@aiesec.jp
- メンバー数 54名(2010年7月1日現在)

平成21年度 執行役員一覧



坂野 晶
委員長
関西学院大学 総合政策学部3年



岸本 大輔
副委員長
海外研修生送出事業局 局長
関西学院大学 総合政策学部3年



伊木 章子
副委員長
人材管理・育成局 局長
関西学院大学 総合政策学部3年



石井 恵士
海外研修生受入事業局 局長
関西学院大学 法学部4年



山本 吏紗
財務局 局長
関西学院大学 総合政策学部2年



東 輝実
広報局 局長
関西学院大学 総合政策学部3年



石本 綾
広報局 送出事業局広報担当
関西学院大学 総合政策学部3年



上田 彩佳
総務局 局長
情報管理局 局長
関西学院大学 総合政策学部3年



丹 夢希
外部関係局 局長
関西学院大学 法学部2年

平成22年度 執行役員一覧



山口 拓馬
委員長
関西学院大学 法学部3年



西岡 伸博
副委員長
海外研修生受入事務局 局長
関西学院大学 経済学部3年



森脇 惇
副委員長
海外研修生送出事務局 局長
関西学院大学 法学部3年



横内 佑和
人材管理・育成局 局長
関西学院大学 総合政策学部3年



佐藤 遼
財務局 局長
関西学院大学 法学部2年



鈴木 敦博
外部関係局 局長
関西学院大学 総合政策学部3年



伊瀬 綾香
外部関係局 局員
関西学院大学 総合政策学部3年



溝口 勝樹
情報管理局 局長
関西学院大学 商学部3年



菅 あすか
総務局 局長
関西学院大学 商学部3年



アイセック関西学院大学委員会
平成21年度 年次活動報告書

発行日 平成22年7月7日

発行団体 特定非営利活動法人アイセック・ジャパン
会員団体アイセック関西学院大学委員会
〒662-8501

兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
関西学院大学新学生会館内

発行責任者 平成22年度 委員長

山口 拓馬（関西学院大学法学部3年）

編集者 平成22年度 外部関係局 局員

伊瀬 綾香（関西学院大学総合政策学部3年）